

国際協力の現場を語る

JICA（ジャイカ：国際協力機構）は、開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持ったシニア（40歳～69歳）を途上国に「シニア海外ボランティア」として派遣しています。この人達はシニアならではの、海外旅行などでの体験とは違ったいろいろな体験をしてきています。そんな話題も含めて体験を語って頂きます。

日 時：毎月第3水曜日 15時30分～17時
 会 場：JICA 横浜 会議室またはセミナールームなど
 会 費：無料（どなたでも自由に参加出来ます）
 主 催：NPO「シニアボランティア経験を活かす会」
 後 援：JICA 横浜



（やむを得ず日時・会場が変更される場合があります。事前にシニアボランティア経験を活かす会ホームページまたは下記問い合わせ先に確認して下さい）

問合せ先：横浜市中区新港2-3-1 JICA 横浜3階 国際協力連絡室内
 シニアボランティア経験を活かす会 神奈川分会
 Fax:045-663-3263 担当：臼井道雄（045-891-5490）
 URL jicasvob.com E-mail info@jicasvob.com

赴任国（講師名）	「タイトル」講演概要	
第107回 7月16日 （水） パラグアイ （式田正利）		「南米の楽園パラグアイ」 南米のへそにあたるパラグアイは気候温暖でのどかである。家々の回りには一年中きれいなハナが咲き、小鳥達が飛び回っています。街を一步出ると、のどかな大牧場が広がり、牧草を牛たちがのんびり食べています。草原には少しの林が残されており、暑い時、牛たちは涼しさを求めて木陰に集まり灼熱の太陽を避けて休んでいます。自然そのままの風景が何処までも続いています。
第108回 8月20日 （水） ネパール （児玉久美子）		「ネパールの暮らしと空港施設とサービス改善」 ネパール観光年2011で空港施設と旅客サービスの改善のためカトマンズ空港へ派遣されていました。カースト制度や各担当省庁の壁や資金不足のため施設や旅客サービスの改善は遅々として進みませんでした。カトマンズの街や川や観光地はゴミだらけ、貧しい子供達はゴミを拾って売り、生活の足しにしています。停電、水不足、教育格差、貧困等、ネパールでは問題が山積でした。
第109回 9月17日 （水） アルゼンチン （平井久和）		「アルゼンチンでのごみ教育」 アルゼンチン国教育省、環境省及びブエノスアイレス市環境局の理解と協力を得て、中学生用ごみ副読本を作成し、モデル校で特別授業を実施してもらいました。また、カウンターパートと現地に赴き、先生、生徒、市の職員の方々等にごみ教育の必要性についてプレゼンテーションをする機会をいただきました。その内容は「ごみ減量と3Rs」「MOTTAINAI」「レジ袋の削減とふろしき」等です。
第110回 10月15日 （水） ラオス （歳原佳世子）		ラオスの「お国の事情」 近年、日本企業の進出がめざましい東南アジアにあって注目度の低いラオス。ラオス政府は外資系企業の誘致に懸命だが、開発の手は今ラオスを飛び越してミャンマーに集中している。一方、ラオスは世界の援助合戦の舞台になっていることは意外と知られていない。ラオスとはどんな国なのか、何が起きているのか、4年半の滞在でラオス国の実情が垣間見えてきたが……。
第111回 11月19日 （水） カンボジア （玉井功一）		「食品微生物検査」 2006年クメール正月明けに大学に赴任した。王立農業大学において食品微生物施設の構築および学生の基礎教育を目的として活動。始めとして現状確認、機器、機材、試薬の設置状況。講義の為の資料作り、優先導入機器の選択および導入処理、スタッフおよび学生に対する微生物の講義実施、学生に対する微生物基礎実験実施。2年間学生、大学スタッフと交流した。